

## 【講義 2】くずし字について

くめ しおり  
条 汐里

### 一、はじめに

この講義では、日本古典籍を取り扱う上で必須の教養である「くずし字」について、基礎知識の概説と、初歩的な課題による読解練習を行う。

「くずし字」は、古典籍や古文書などの前近代の資料にみられる文字表記であるが、資料の時代、ジャンル、個人によって崩し方の差異が大きく、その解読の方法も、表記の種類によって異なる。この講義では、「くずし字」習得の第一歩として、「あ」から「ん」までの四十八の変体仮名（平仮名のくずし）を中心に読解練習を行う。加えて、読みたい資料に合わせた辞典・教材類の活用法について解説する。  
（過去 5 年の担当教員：海野圭介、恋田知子、岡田貴憲、条汐里）

### 二、くずし字とは

文字資料のうち、楷書<sup>かいしよ</sup>の点画<sup>てんかく</sup>を省略した手書き文字、そして手書き文字をもとにした版本の文字のことを「くずし字」という。

書道史では点画の省略段階を「草書<sup>そうしよ</sup>」「行書<sup>ぎようしよ</sup>」等に区分するが、歴史学・日本文学・書誌学の研究分野では、それらを包括的に「くずし字」と総称する。なお書道史研究の対象外とされやすい近世文書や古典籍の文字については、明確な区分が存在しないことから、「くずし字」という用語がそのまま一般的に使われている。

「くずし字」は古典籍や古文書などの表記に用いられてきたが、明治時代以降、金属活版印刷の普及や仮名字体の統一に伴って衰退した。その後の例として残るものとしては、速記性・秘匿性を求められる手書きの書簡類や、デザイン性を求められる看板類などがある。

### 三、くずし字の特徴

#### 1) 変体仮名

「くずし字」には、現行の標準字体の仮名に加えて、それとは異なる字体の仮名＝変体仮名が多く用いられる。変体仮名とは、明治33年（1900）の「小学校令施行規則」で採用されなかった仮名で、古典籍や古文書を読む上で必須。それぞれの仮名の元となった漢字を「字母」という。

#### 2) 漢字の省略、異体字・俗字

漢字の「くずし字」は、楷書の<sup>かいしよ</sup>点画<sup>てんかく</sup>を省略した「<sup>そうしよ</sup>草書」「<sup>ぎょうしよ</sup>行書」で書かれるほか、通行の字体とは異なる<sup>いたいじ</sup>異体字・<sup>ぞくじ</sup>俗字をしばしば用いる。点画の省略方法には、一定の法則があり、時代・地域・個人単位で特徴がみられる場合も多い。

#### 3) 連綿体、踊り字

「くずし字」には、二字以上の文字を続けて書く<sup>れんめんたい</sup>連綿体（つづけ字）や、同じ文字や語句を繰り返すときに用いる「ゝ」「と」「々」「ゝ」「/」「\」（くの字点）などの<sup>おど</sup>踊り字<sup>じ</sup>とよばれる繰り返し符号が頻出する。

連綿体は一字ずつの区分が困難な場合もあり、「<sup>もうしそうろう</sup>申候」「<sup>ごぎそうろう</sup>御座候」などの敬語の定型句は、省略の大きな連綿体にある場合がある。

また踊り字は連綿の中に紛れることも多く、ともに注意が必要。踊り字は、漢字（々と）・平仮名（ゝ）・片仮名（ゝ）と符号が使い分けられているが、資料によっては、その使い分けが曖昧な場合もある。

### 四、くずし字の読み方

#### 1) 漢字と仮名を判別する

崩して書かれている文字が、漢字なのか仮名なのかを判別する。その手がかりとして、変体仮名の<sup>じ ぼ</sup>字母を覚えることから始める。変体仮名の字母は全部で 322 種あるが、その中でも使用頻度の高い字母 150 種（48 音×約 3）をまずは習得する。

## 2) 前後の文章から文字を類推する。

読めない文字があっても、文脈をおさえながら、最適な読みを試みる。

古典籍の場合、読み始めは活字化された本文を参考にしながら読むと、その本の表記の特徴を捉えることができる。

特定の地名や人名などは、判別が難しいため、地名辞典や人名辞典を活用する。

## 3) 清音と濁音の判別

基本的に古典籍の表記では、文字に清濁の別がついていない（稀に濁点などが付いている資料もある）。濁点「ㇿ」や半濁点「゜」は文章の前後で判断して、解読する側で読むこととなる。同じ語でも時代によって清濁が異なる場合があるため、時代別の辞書などで確認する。

### 参考文献

#### 【辞典・字典】

- ・ 児玉幸多『くずし字解読辞典 普及版』東京堂出版、1979 年 \* 起筆順検索
- ◎ 児玉幸多『くずし字用例辞典』東京堂出版、1981 年 \* 崩し方が段階的に説明
- ・ 笠間影印叢刊刊行会編『字典かな一写本を読む楽しみ』笠間書院、2003 年  
\* 古今の名筆
- ・ 江守賢治『草書検索字典』三省堂、2007 年
- ・ 法書会編『五體字類 改訂第四版』西東書房、2014 年 \* 楷・行・草・隸・篆

#### 〈異体字・俗字を読む〉

- ・ 日外アソシエーツ編集部『漢字異体字典』日外アソシエーツ、1994 年

#### 〈資料の時代・ジャンルごとに読む〉

- ・ 林英夫監修『新編 古文書解読字典』柏書房、1993 年 \* 江戸時代～明治初期

- ・波多野幸彦監修『くずし字辞典』思文閣出版、2000年 ＊江戸期のくずし字解説
- ・根岸茂夫『江戸版本解説大字典』柏書房、2000年
- ・林英夫監修・柏書房編集部編『入門 古文書小事典』柏書房、2005年

＊戦国期～明治期

〈意味を調べる〉

- ・中村幸彦・岡見正雄・阪倉篤義編『角川古語大辞典』角川書店、1982—1999年
- ・上代語辞典編修委員会編『時代別国語大辞典』上代編、三省堂、1967年
- ・室町時代語辞典編修委員会編『時代別国語大辞典』室町時代編、1985—2001年

### 【教材】

- ・吉田豊『寺子屋式古文書手習い』柏書房、1998年
- ・アダムカバット『妖怪草紙—くずし字入門』柏書房、2001年
- ・吉田豊『寺子屋式古文書女筆入門』柏書房、2004年
- ・吉田豊『寺子屋式続古文書手習い』柏書房、2005年
- ・油井宏子監修・柏書房編集部編『古文書検定 入門編』柏書房、2005年
- ・兼築信行『一週間で読めるくずし字 伊勢物語』淡交社、2006年
- ・兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』淡交社、2006年
- ・飯倉洋一編『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習支援アプリ KuLA の使い方』笠間書院、2017年 ＊アプリ・Web サイト
- ・油井宏子『くずし字辞典を引いて古文書を読もう』東京堂出版、2019年
- ・「みんなで翻刻」国立歴史民俗博物館・東京大学地震研究所・京都大学古地震研究会  
<https://honkoku.org/>

### 【翻刻をさがす】

- ・市古貞次・大曾根章介編『国文学複製翻刻書目総覧』正・続 日本古典文学会、1982—1989年

- ・日本古典籍総合データベース＞国書所在＞【複】

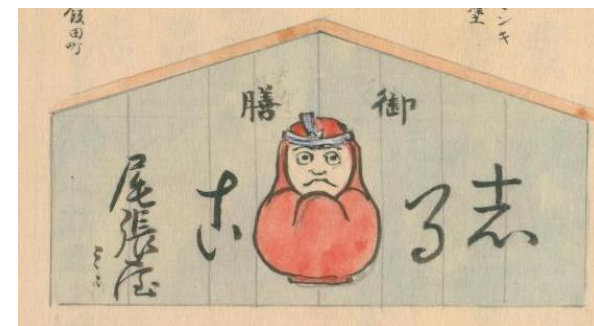
<https://basel.nijl.ac.jp/~tkoten/>

- ・国文学論文目録データベース＞ 〈翻刻〉 or 〈翻〉 で検索

<https://basel.nijl.ac.jp/~rombun/>

練習問題 1

次の看板を読んでみましょう。



①

☐ ☐ ☐



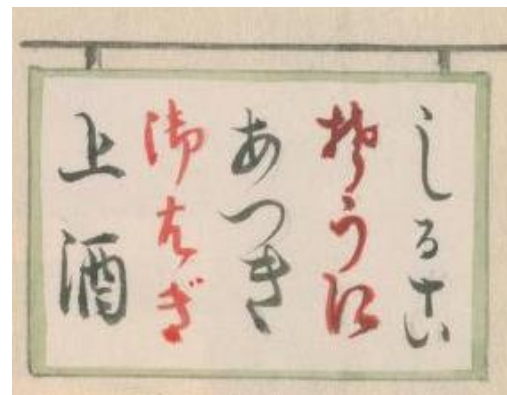
⑤

汁 ☐ ☐ ☐



②

☐ ☐ ☐



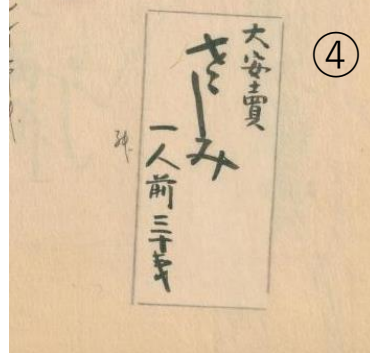
⑥

しる ☐  
うに ☐  
あつき ☐  
御 ☐ ぎ



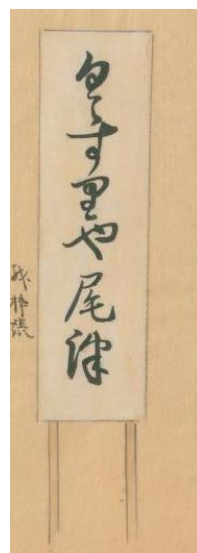
③

肉 ☐ とん ☐  
☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐



④

大安売 ☐ ☐ ☐  
一人前三十銭



⑦

☐ す ☐ や尾津

岡不崩 (1869-1940) 著  
国立国会図書館蔵『新帝都看板考』 (本別7-568)  
info:ndljp/pid/2610285

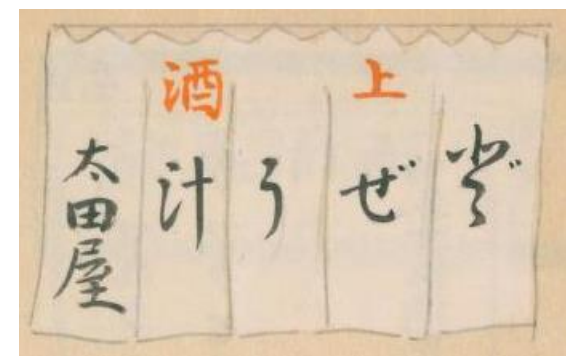
練習問題 1

次の看板を読んでみましょう。



①

こ る し  
古 志



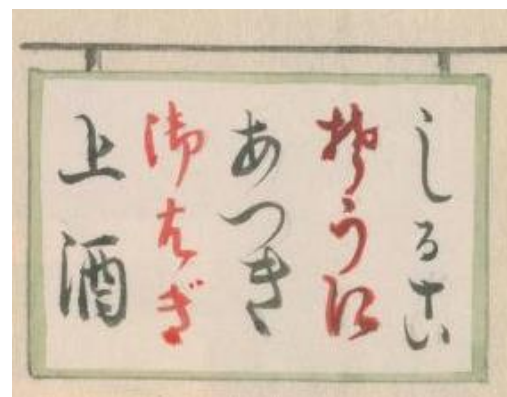
⑤

汁 う ぜ ど  
登



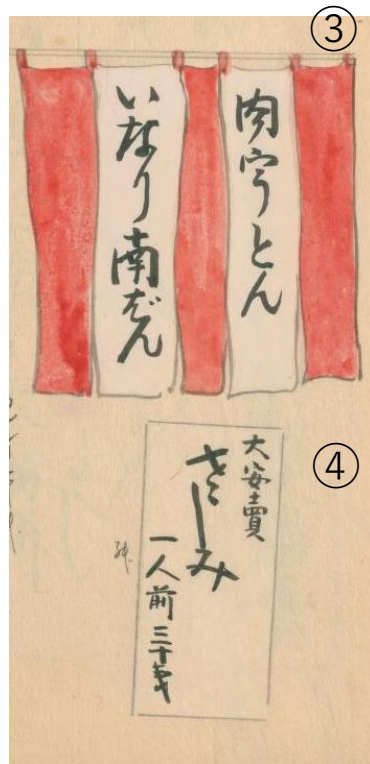
②

こ ば た  
古 者



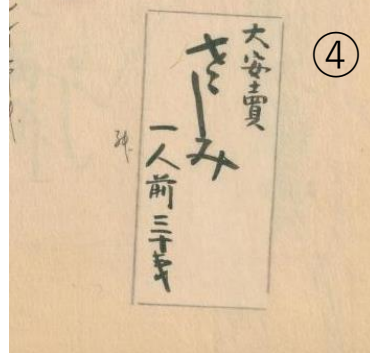
⑥

御 あ そ 楚 し  
は つ う り る  
ぎ き に こ 古



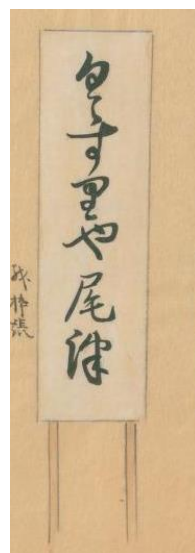
③

肉 う と ん  
い な り 南 だ ん  
者



④

左 さ し み



⑦

具 里  
く す り や 尾 津

岡不崩 (1869-1940) 著  
国立国会図書館蔵『新帝都看板考』 (本別7-568)  
info:ndljp/pid/2610285

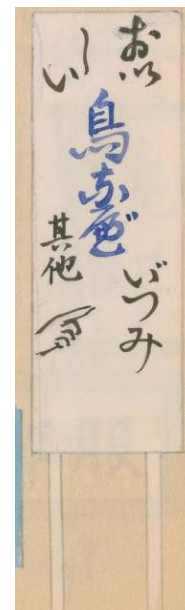


練習問題 2

次の看板を読んでみましょう。

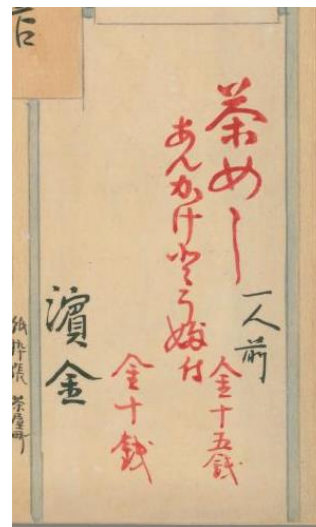
⑧

鳥□□

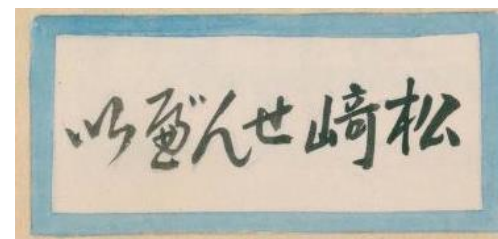


⑨

茶めし  
あんかけ□う□付



⑪



□□んせ崎松

⑩

□ □ お 雷



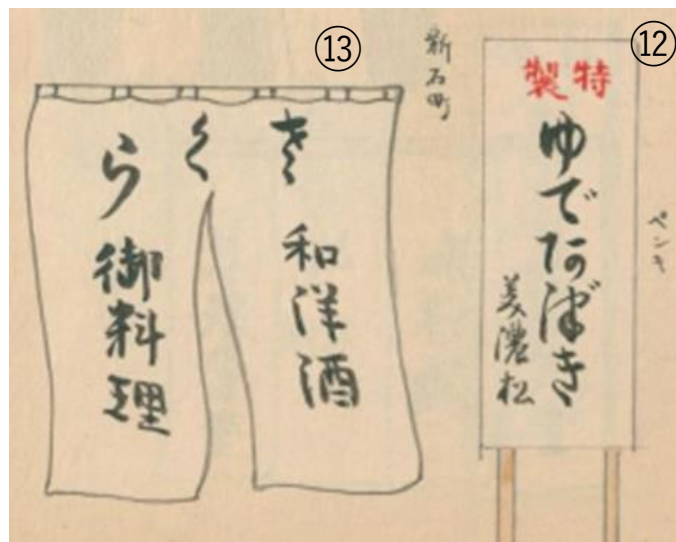
⑫

特製  
ゆで  
そば  
美濃松

ゆで  
□  
□  
き

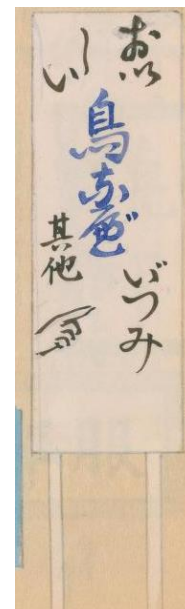
⑬

ら □ □



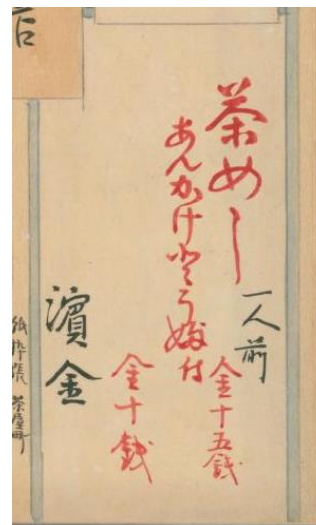
⑧

奈遍  
鳥なべ



⑨

茶めし 登婦  
あんかけとうふ付



⑩

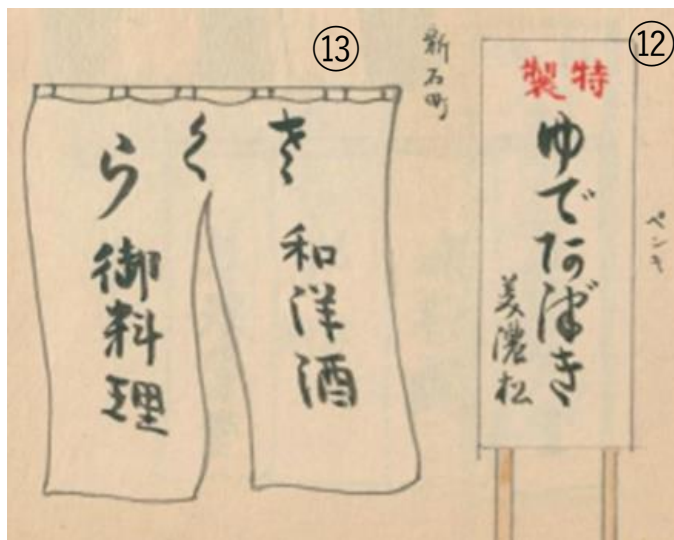
雷 お 古  
し



⑫

特製  
ゆであづき  
美濃松

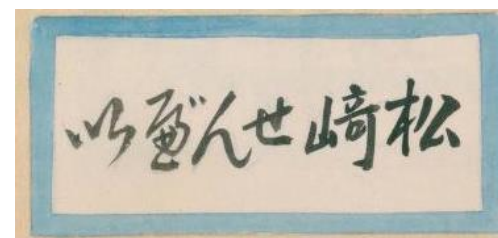
新石町



阿津  
ゆであづき  
さ 左  
く 久  
ら

⑪

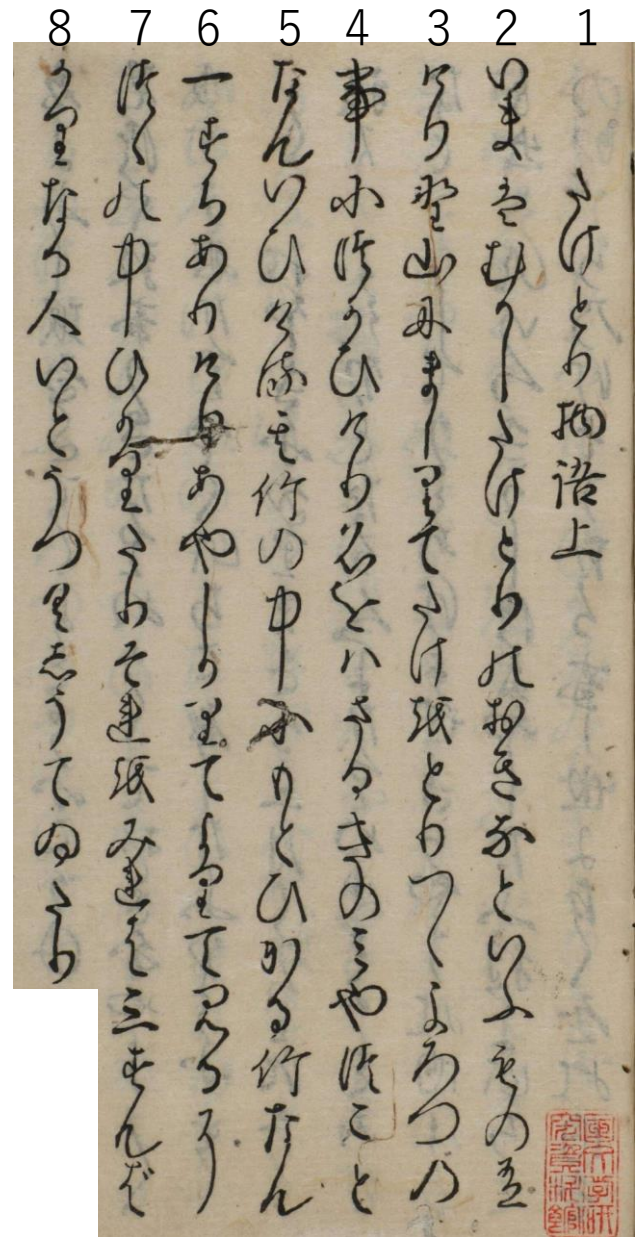
松崎 せ べん 遍  
以





問題 1

次のくずし字を読んでみましょう。



□□□□物語上

いま□む□し□けとり□おき□といふもの有

□り野山□まし□て□け□とりつ□よろつ□

事□□□ひ□り名を□さるきのみや□こと

なんいひ□□其竹の中□もとひか□竹なん

一□ちあ□□りあやし□□てよ□□見□□

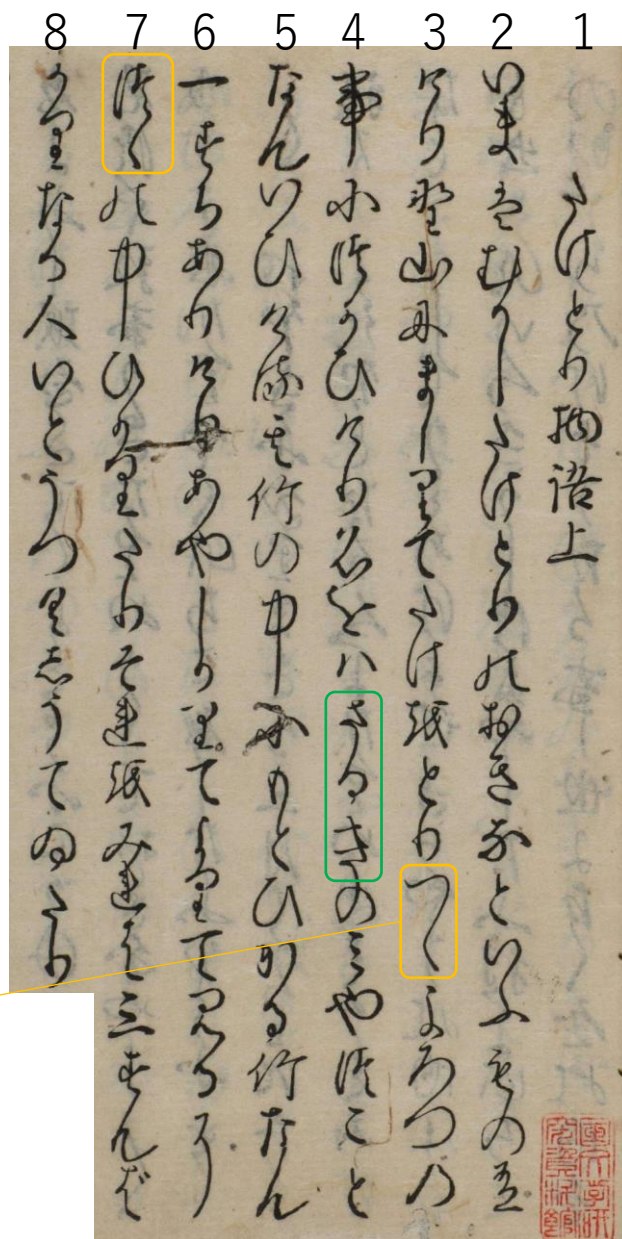
□□□中ひ□□□□そ□□み□□三□ん□

□□なる人いとうつ□□うてゐ□□

# 問題 1

次のくずし字を読んでみましょう。

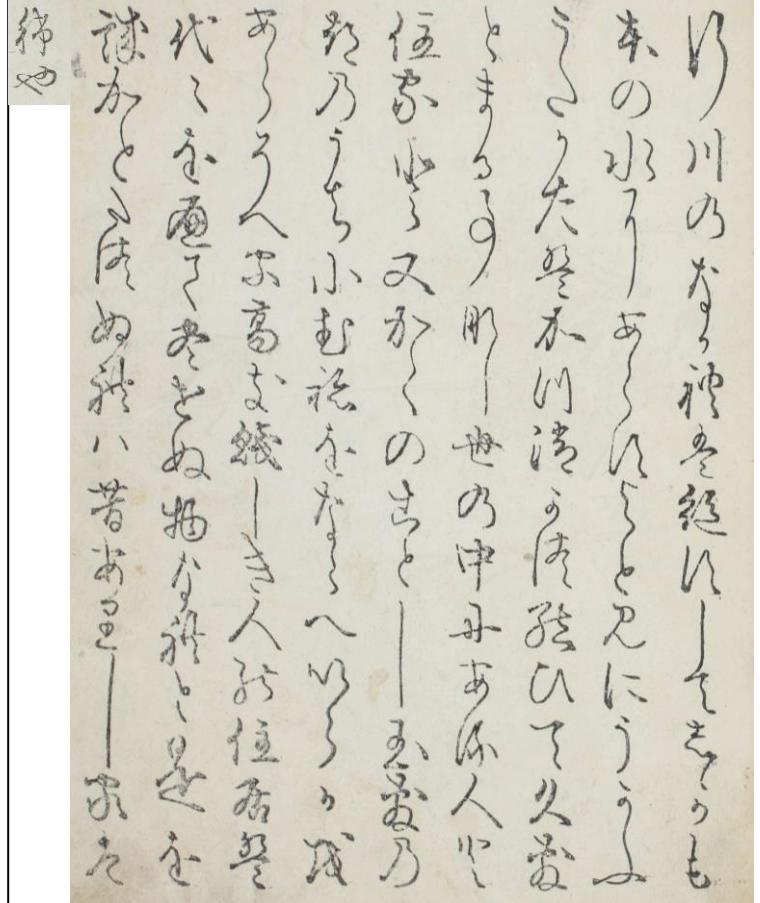
(解答)



# 問題 2

次のくずし字を読んでみましょう。

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



行川□な□□□絶□し□□□も

本の水□あ□□□□□にう□ふ

う□□た□か□消□□結ひ□久敷

□□ま□事□し世□中□あ□人□

住家□又かくの□とし玉敷□

都□うち□む□をならへ□□□□

あ□□へ□高□賤しき人□住居□

代々を□□尽□ぬ物な□と是を

誠かと□□ぬ□□昔あ□し家□

稀也

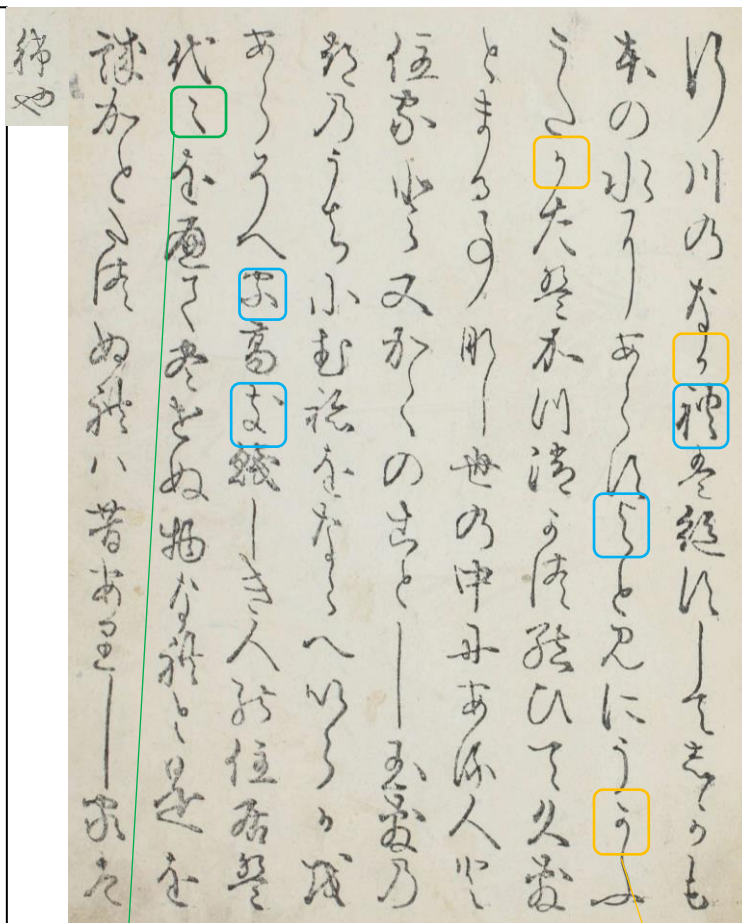


問題 2

次のくずし字を読んでみましょう。

(解答)

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



くるつと巻かれた  
「可」の字に注意  
可めらうり

：二の字点。  
その字の重ね  
読みを指示。  
〓々

乃 可 禮 盤 須 天 志 可  
行川のなか**かれ**は絶すしてしかも  
耳 須 与 見 可  
本の水にあらず**よ**とみにう**か**ふ  
多 可 盤 川 可 徒 天  
う**た**かたはかつ消かつ結ひて久敷  
留 那 乃 丹 流 登  
と、まる事なし世の中にある人と  
登 古 乃  
住家と又かくの**こと**し玉敷の  
乃 爾 爾 以 可 越  
都のうちにむねをならへ**いら**かを  
曾 累 支 能 盤  
あ**ら**そへる**高**き賤しき人の住居は  
遍 天 世 禮  
代々をへて**尽**せぬ物なれと是を  
多 徒 禮 八 里 盤  
誠かと**た**つぬ**れ**は昔ありし家は  
稀也

れ 禮

禮

れ 禮

よ 与

与

よ 与

累

累

累

累

奈

奈

奈

奈

き

支

支

支

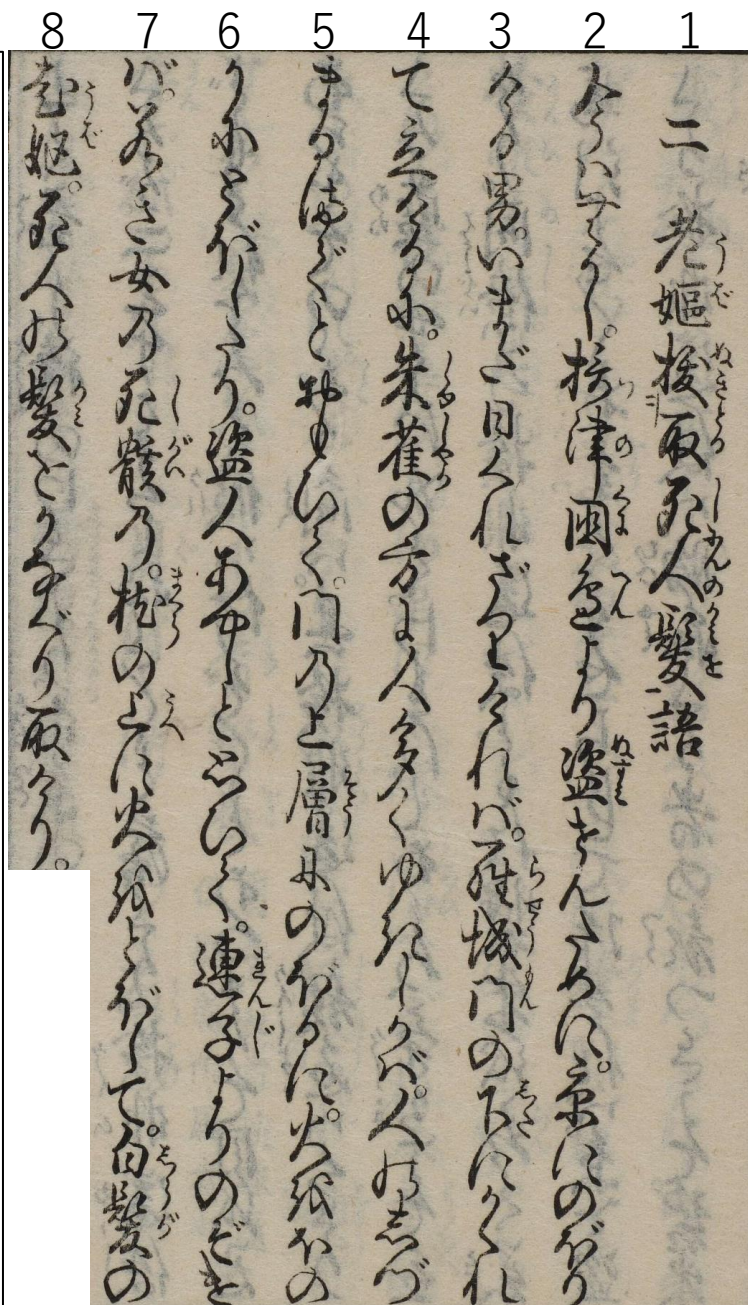
支

支

支

問題3

次のくずし字を読んでみましょう。



国文学研究資料館蔵『和朝 今昔物語』(96-156)

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200019196/viewer/373><sup>22</sup>

二 老嫗拔取死人髪語

今は□□□。摂津国辺より盗□□□□□。京に□□□

□□男。いまだ日□□□□□。羅城門の下に□□□

て立□□□。朱雀の方□人多く□□□□□。人□□□

□□□□とおもひて。門□上層□□□□□。火□□□□

□□□□□。盗人あやしと思ひて。連子より□□□□

□。若き女の死骸の。枕の上に火□□□□□。白髪

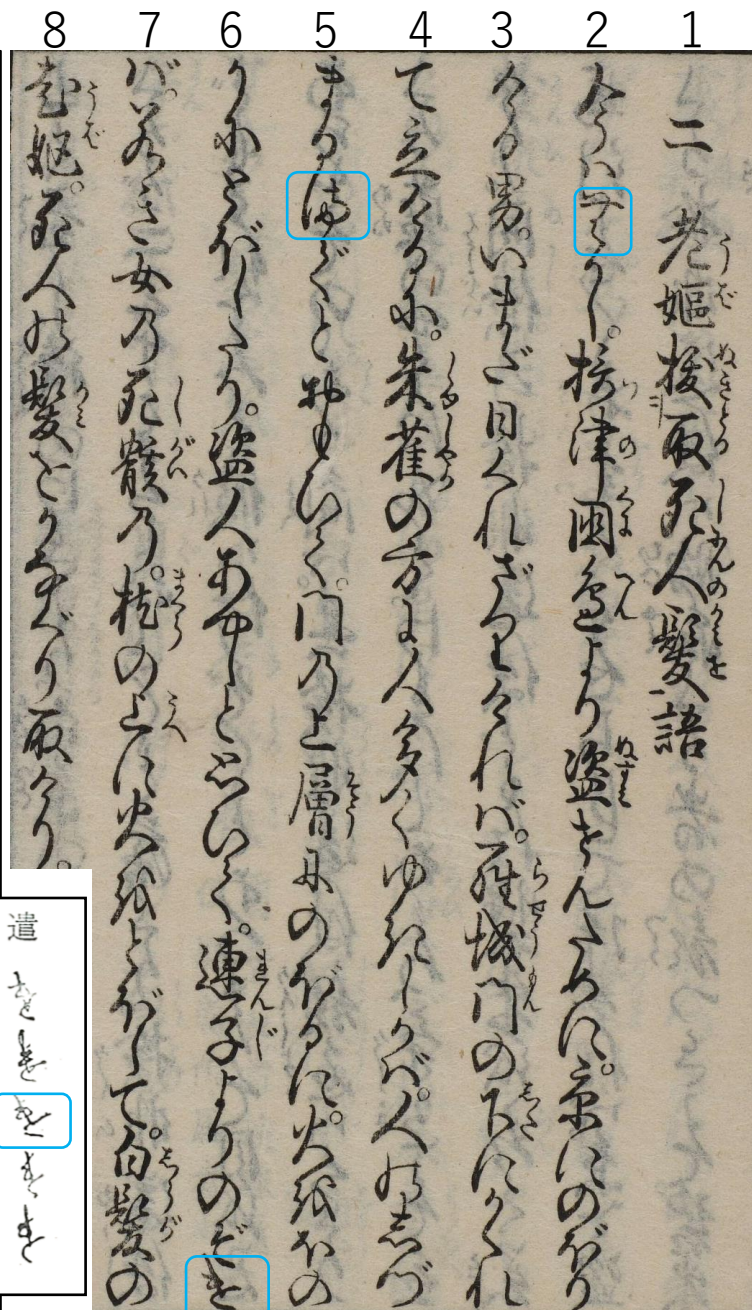
老嫗。死人□髪を□□□□取□□。



問題3

次のくずし字を読んでみましょう。

(解答)



二 老嫗拔取死人髪語

無可

世多

本

今は**むかし**。摂津国辺より盗**せん**ために。京にの**ぼり**

介留

久

里介

八

可

ける男。いまだ日**くれざり**ければ。羅生門の下に**かくれ**

介留

久

里介

八

能志川

て**立て**けるに。朱雀の方に人多く**ゆきしか**ば。人の**しづ**

留満天

乃

丹

本留

越本

まるまでとおもひて。門の上層にの**ぼる**に。火を**ほの**

可爾本多

起可八

能志川

かに**とぼ**したり。盗人あやしと思ひて。連子よりの**ぞけ**

八

越本

ば。若き女の死骸の。枕の上に火を**とぼ**して。白髪の

能

可奈

介

老嫗。死人の髪を**かなぐり**取けり。

無

せ

せ

せ

満

は

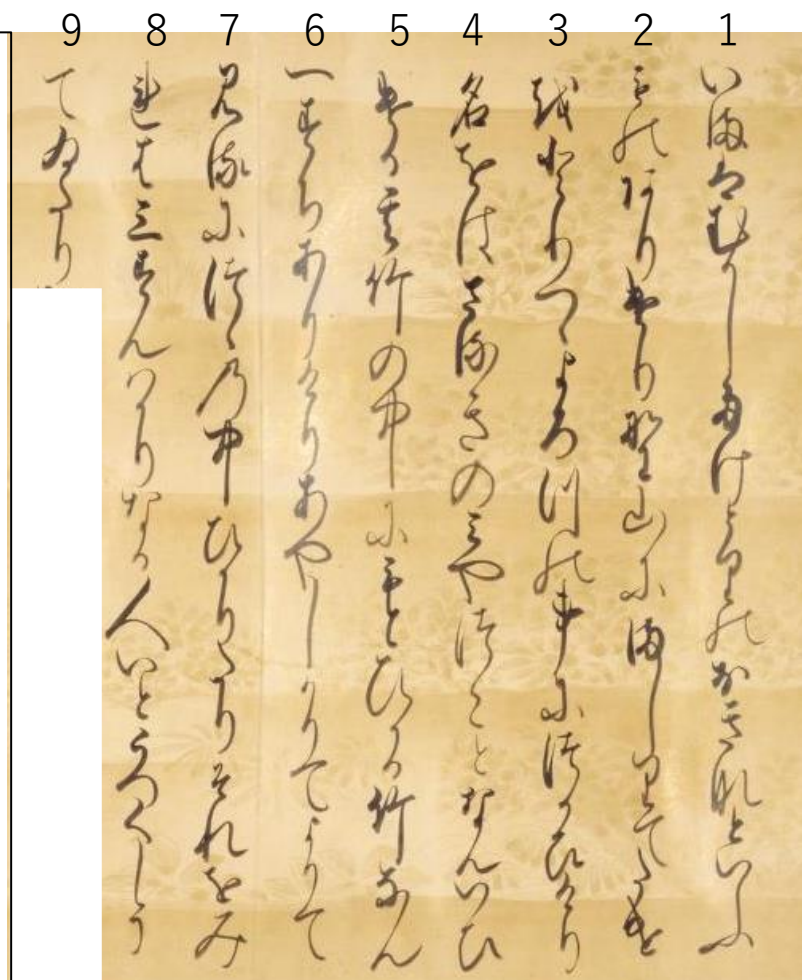
は

は

は

## 問題 4

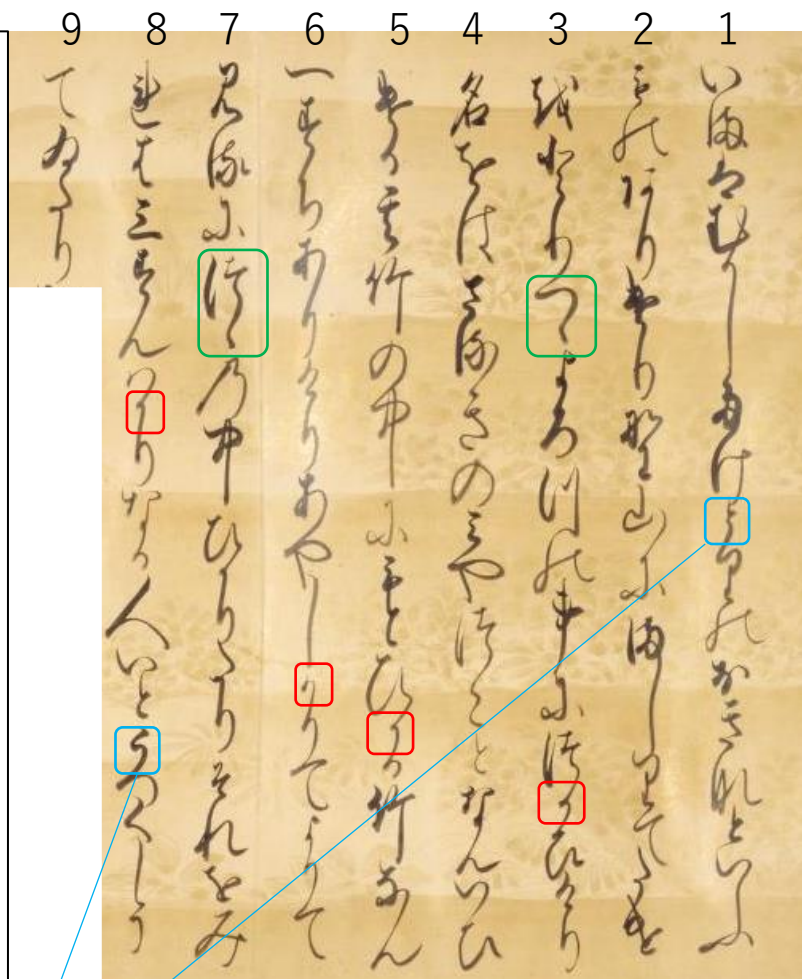
次のくずし字を読んでみましょう。



問題 4

次のくずし字を読んでみましょう。

(解答)



国立国会図書館蔵『竹取物語』(本別12-3)  
10.11501/1287221

縮んだような字体

踊り字

「可」のくずし

満盤 可 多 里能 那  
いまはむかしたけとりのおきなといふ  
能阿 遣 爾満 里 多遣  
ものありけり野山にましりてたけ  
越登利 川能 爾徒可 介  
をとりつゝよろつの事につかひけり  
流 徒  
名をはさるきのみやつことなんいひ  
遣留 爾 可 奈  
ける其竹の中にもとひかる竹なん  
春 介 可  
一すちありけりあやしかりてよりて  
流爾徒 乃 可 多  
見るにつゝの中ひかりたりそれをみ  
連者 春 八可  
れは三すんはかりなる人いとうつくしう  
多  
てゐたり

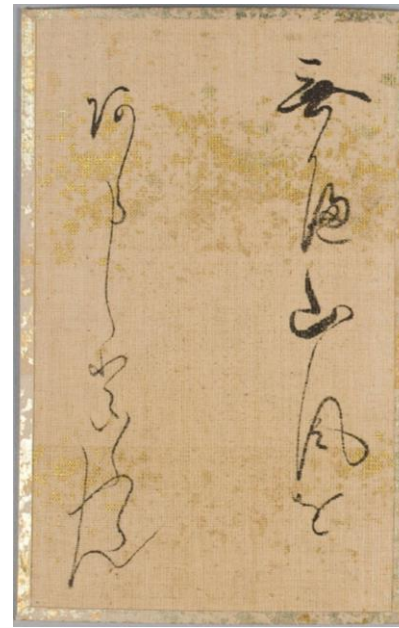
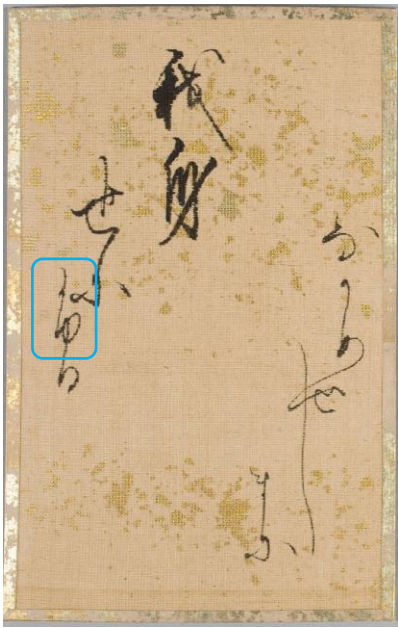




問題5

次のくずし字を読んでみましょう。

(解答)



我身  
世に  
布ふる  
なかめせ  
し

まに

小野小町  
はなの色は  
うつりに  
津に  
けりな  
いたつらに

あらしといふらん

むへ山風を

文屋康秀  
吹からに  
あきの  
草木の  
しほるれは

散書(ちらしがき)  
手紙・色紙・短冊な  
どに文字を書く書き  
方の一種。

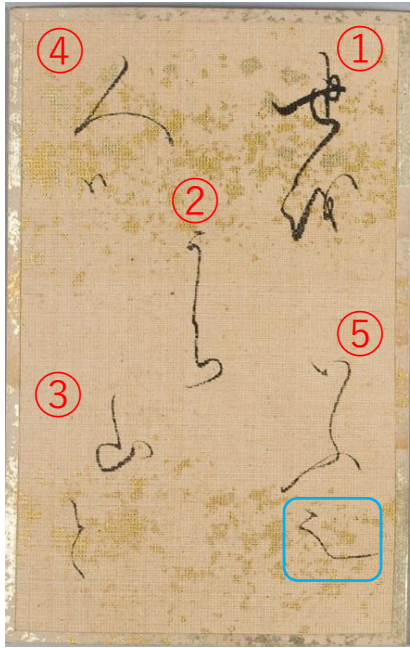




問題 6

次のくずし字を読んでみましょう。

(解答)



人は  
山  
は  
世を  
いふ也  
うち

喜撰法師  
我庵は  
みやこの  
堂  
たつみ  
鹿そすむ

かな  
時そ  
秋は  
聲きく  
しき

猿丸太夫  
おく山に  
もみち  
ふみ  
わけ  
なくしかの